

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：33906

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K10766

研究課題名（和文）看護系大学が示すべき「高校生の自己特性と看護とのマッチングに有効な要素」の明確化

研究課題名（英文）Clarification of "effective factors for matching high school student' personal characteristics with nursing" that nursing colleges should demonstrate.

研究代表者

大塚 敏子 (Otsuka, Toshiko)

椋山女学園大学・看護学部・教授

研究者番号：80515768

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：看護系大学等が求める人材に関する情報発信の内容として、2023年4月～6月に全国の看護系大学等のホームページから収集したアドミッションポリシーについてテキスト分析を行った。結果、人への関心を有することを基本として、基礎学力やコミュニケーション能力、主体的に自ら考え行動できる力を有していること、また看護・医療・福祉等を学ぶことや他者への貢献に意欲を持っているなどの人物像が表現されていた。これらの要素は国が示す「看護系人材として求められる基本的な資質・能力」や先行研究で報告されている看護職に必要な資質と共通しており、高校生の特性と看護との親和性を検討する上で重要な要素を表していると考えられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の結果、看護系大学等のアドミッションポリシーには、基礎学力以外にも、高校生が持っている特性として、人への深い関心を基本として、社会貢献等への意欲や多様な価値観を理解する能力、基本的な協調性やコミュニケーション能力、主体的に学ぶ姿勢といったキーワードが示されていた。看護系大学がアドミッションポリシーとして発信している情報には、高校生が自己の特性や能力と看護との親和性を考えるために必要な要素が含まれていると考えられた。今後は、高校生や進路指導の教員、保護者への調査を行い、これらの大学側の情報発信がどのように捉えられ、生徒と看護との親和性の検討に活用されているかを明らかにする必要がある。

研究成果の概要（英文）：As part of the information dissemination regarding the human resources sought by nursing colleges and universities, we conducted a text analysis of the admission policies collected from the websites of nursing colleges and universities nationwide from April to June 2023. The results showed that, based on their interest in people, the policies expressed the following characteristics of individuals: basic academic skills, communication skills, the ability to think and act independently, and a desire to learn about nursing, medical care, and welfare, as well as a desire to contribute to others. These elements were common to the "basic qualities and abilities required of nursing personnel" as indicated by the national government, as well as to the qualities required of nurses as reported in previous studies. These elements were considered to represent important factors in examining the affinity between the characteristics of high school students and nursing.

研究分野：公衆衛生看護

キーワード：看護大学 高校生 マッチング 自己特性

1. 研究開始当初の背景

看護系大学の増加等により、自身の特性と看護との親和性をよく検討しないまま看護系大学に進学する学生が増えている。中でも発達障害の傾向を持つ学生は学修上著しい困難を示すことが多く課題となっている。一方で、看護系大学側から進学希望者に対し看護職・看護学生として求められる資質について十分な情報提供をしているとは言い難い。また、進路指導をする高校教員や保護者にとって看護学生・看護職の実状を理解した上での適性判断は難しく、学力や本人・保護者の意向、偏差値優先の進路指導になりがちである。看護系大学への進学は看護職としての就労に直結していることから、自己の特性と看護とのマッチングを十分に検討し進路決定する必要がある。

2. 研究の目的

看護系大学が行っている高校生に対する情報発信の現状、進路選択を支える高校教員・保護者の看護系大学への進学に関する認識および高校生への支援の実態を把握する。その結果から、高校生が自己特性と「看護とのマッチング」をする際に有効な、看護系大学が示すべき要素を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

以下の3つの調査を実施し得られたデータを統合して、看護系大学への進路希望がある高校生が、自己の特性と看護の親和性の検討を充分に行うことが可能となる「看護系大学として行うべき支援」を具体的に示し、結果を公表する。1) 看護系大学への調査：アドミッションポリシー調査および質問紙調査による高校生への進路選択支援の実態を明らかにする。2) 看護系大学生調査：看護系大学生が高校時代に受けた進路選択支援や自己特性と看護に求められる資質のマッチング検討の経験を明らかにする。3) 保護者調査：保護者の子どもに対する進路選択支援の内容や子どもの特性と看護に求められる資質のマッチングに関する認識を明らかにする。

4. 研究成果

2023年4月～6月に看護系大学292課程、短期大学14課程(以下、看護系大学等)について各学校のホームページ等からアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを収集した。得られたアドミッションポリシーのテキストデータについてテキスト分析ソフトウェアを用いて分析した。

1) 単語頻度解析：頻度が上位のワードは人、関心、持つ、学ぶ、意欲、基礎学力、看護、他者、有する、必要、社会、人々、健康、主体的、看護学、貢献、人間、自分、医療であった。

2) 係り受け頻度解析：頻度が上位の係り受けは関心-持つ、基礎学力-有する、看護学-学ぶ、社会-貢献、人々-健康、関心-もつ、意欲-有する、健康-生活、意志-持つ、看護-学ぶ、心-持つ、基礎学力、持つ、考え-表現、社会-貢献+したい、人-関わる、大学-学ぶ、考え-表現+できる、貢献+したい-考える、だった。

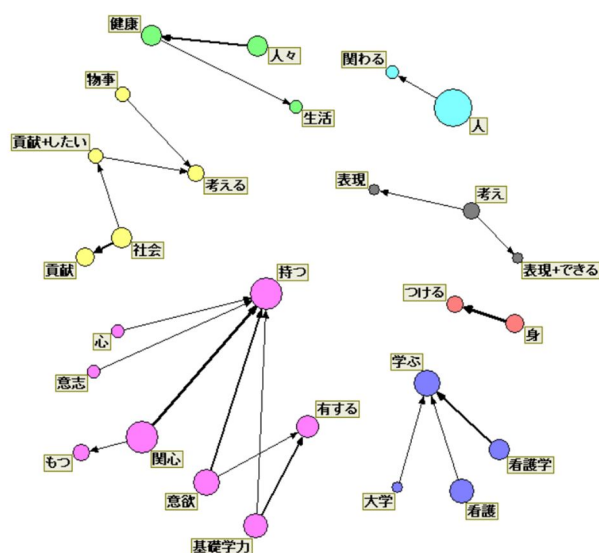


図1 係り受け関係抽出

3) 係り受け関係抽出(図1): 人・関わる、大学・看護・看護学・学ぶ、基礎学力・意欲・有する、人々・健康・生活、社会・貢献したい・物事・考える、関心・持つ、心・持つといった共起関係のグループが形成された。

4) 共起関係抽出(図2): 共起関係が最も強かったのは「人-関心」であった。「関心」以外に「人」と共起関係のあるワードとして、コミュニケーション、尊重や貢献、思いやり、主体的等があった。

これらの分析の結果、看護系大学等のアドミッションポリシーには、基礎学力や以外にも、生徒が既に持っている特性として、人への深い関心を基本に、学びや社会貢献等への意欲、多様な価値観を理解する能力、基本的な協調性・コミュニケーション能力、主体的に学ぶ姿勢といった要素が示されていた。

看護系大学がアドミッションポリシーと

して発信している情報には、高校生が自己の特性や能力と看護との親和性を考えるために必要な要素が含まれていると考えられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	坪見 利香 (Tubomi Rika) (40452180)	浜松医科大学・医学部・准教授 (13802)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関